

アーカイブズ学専攻（博士前期課程）

1. 教育研究上の目的

アーカイブズ学専攻は、記録・アーカイブズと人間活動の関係を探究し、それら資料の保存・利用等についての基本的なプログラムを設計・運用するとともに、具体的な研究実践を通して問題解決を図ることができる高度な専門性を有する人材を養成する。

2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

アーカイブズ学専攻（博士前期課程）では、履修規定に定めた必要単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、下記の能力を備えていると判断した場合に、「修士（アーカイブズ学）」の学位を授与します。

（知識・技能）

1. 記録・アーカイブズに関する作成・整理、評価選別・収集、保存、利用、普及についての基本的な知識及び技能を身につけている。これらは、アーキビストに関する機関・団体等が公表する職務基準等を満たすものとする。

（思考・判断・表現）

2. 記録・アーカイブズを取り巻く様々な課題に対し、先行研究を十分に学ぶことを通じて課題を具体的かつ明確なものにするとともに、実際の研究作業を通して実証的に解決し、学会発表ないし研究論文等を通して学界及び社会に発信することができる。

（関心・意欲・態度）

3. 記録・アーカイブズと人間活動の関係を探究し、保存・利用等についての基本的なプログラムを設計し、運用することを目指すため、公平・中立を守り、証拠を操作して事実を隠蔽・わい曲するような圧力に屈することなく、その使命を追求し、研究及び実践を行う意欲を持っている。

3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

アーカイブズ学専攻（博士前期課程）では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を修得させるために、以下のような内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成します。

（教育内容）

1. アーカイブズ学の中核的知識を体系的に身につけるため、「アーカイブズ学概論」「アーカイブズ学理論研究」「記録アーカイブズ研究」「アーカイブズ管理研究」「デジタルアーカイブズ」を配置する。（知識・技能／思考・判断・表現／関心・意欲・態度）

2. より広い情報資源論という領域からアーカイブズ学を位置づける視点を獲得するため、図書館情報学及び博物館情報学に関する「情報資源論」を配置する。(知識・技能)
3. アーカイブズ学に関する基礎的研究能力を養成するとともに、将来専門職（アーキビスト）として様々な現実的課題に科学的かつ実践的に対応する問題解決能力を育成するため、「アーカイブズ管理演習」「デジタルアーカイブズ演習」「アーカイブズ学演習」を配置する。(知識・技能／思考・判断・表現／関心・意欲・態度)
4. アーカイブズ機関の様々な業務及びアーキビストの専門的業務の在り方を観察ないし模擬体験することを通して、様々な調整、応用又は変更等が重ねられていること、またそれらにより業務の全体が構成されていることを理解するため、機関実習を含む「アーカイブズ実習」を配置する。(知識・技能／関心・意欲・態度)

(教育方法)

1. 講義科目では、幅広い知識を修得させることを目的として、講義法を採用する。
2. 演習科目では、学生自身の課題設定及び研究作業を基として、プレゼンテーション能力及び論文作成能力を向上させるため、研究発表、質疑応答、研究討議を行う。
3. 実習科目により、アーカイブズ機関における2週間の実習、その事前学習及び事後のフォローアップ等を行う。
4. 学生が提出した研究計画書に基づいて組織された修士論文指導委員会は、論文の進捗について報告を受け、指導を行う。
5. 指導教授がきめ細かな研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。

(教育評価)

1. 知識・技能の修得に関しては、修士論文による研究成果の審査を通じて評価する。なお、その審査にあたっては、別に定める審査基準に基づいて、総合的に判断する。
2. 講義科目において、具体的な問題に関する報告及び討論を行うなかで、論理的かつ科学的な説明を行う能力、十分に根拠づけられた説得的な議論を構築する能力、及び他者との議論の中で妥当な結論を導いていく能力を測る。
3. 演習科目において、自らの知識と思考を用いて具体的な問題を検討し、解決しようとする姿勢と能力を測る。
4. 実習を行った外部機関の指導担当者より実習評価票を提出してもらうとともに、実習検討会において意見交換を行い、現場における適応能力、知識・技能の活用能力を評価する。

4. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

アーカイブズ学専攻（博士前期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. デジタル形式か紙文書かを問わず、記録・アーカイブズに関する評価選別・収集、保存、利用、普及に関する基礎的知識を有している。

(思考・判断・表現)

2. 記録・アーカイブズに関する諸問題に関心を持ち、それを具体的な研究課題として、基礎的作業や調査研究に取り組み、その成果を適切に発表することができる。

(関心・意欲・態度)

3. 記録・アーカイブズと人間活動の関係を探究し、保存・利用等についての基本的なプログラムを設計し、運用することを目指すため、これに関する社会的な使命を自覚して研究・実践に取り組む意欲がある。

以 上